



Red Hat Fuse 7.10

Red Hat Fuse 7.10 のリリースノート

Red Hat Fuse の新機能

Red Hat Fuse 7.10 Red Hat Fuse 7.10 のリリースノート

Red Hat Fuse の新機能

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

法律上の通知

Copyright © 2022 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Release_Notes_for_Red_Hat_Fuse_7.10.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本リリースノートは、Red Hat Fuse のリリース間で変更になった内容の概要を取り上げます。

目次

多様性を受け入れるオープンソースの強化	4
第1章 FUSE 7.10 の製品概要	5
1.1. FUSE のディストリビューション	5
1.2. 新機能	5
1.3. FUSE 7.10.1 に関する事項	5
1.4. FUSE 7.10.2 NOTES	6
1.5. 重要事項	6
1.6. SUPPORTED CONFIGURATIONS	6
第2章 FUSE ONLINE	8
2.1. FUSE ONLINE ディストリビューション	8
2.2. FUSE ONLINE 7.10 の新機能	8
2.3. FUSE ONLINE 7.10 での変更点	9
2.4. FUSE ONLINE 7.9.X から 7.10.X にアップグレードするには、手動によるアップグレード手順が必要	9
2.5. FUSE ONLINE インテグレーションのアップグレード	10
2.6. FUSE ONLINE での重要事項	11
2.7. FUSE ONLINE のテクニカルサポートの利用	11
2.8. FUSE ONLINE のテクノロジープレビュー機能	11
第3章 FUSE ON OPENSIFT	13
3.1. OPENSIFT のサポート対象バージョン	13
3.2. サポートされるイメージ	13
3.3. FUSE 7.10 ON OPENSIFT の新機能	14
3.4. 重要事項	14
第4章 FUSE スタンドアロン	16
4.1. サポートされるコンテナ	16
4.2. FUSE 7.10 の新機能	16
4.3. テクノロジープレビューの機能	16
4.3.1. Apache Camel の Fuse Tooling サポート	16
4.4. FUSE 7.10、FUSE 7.10.1、および FUSE 7.10.2 の BOM ファイル	18
4.4.1. Fuse 7.10.2 の BOM ファイル	18
4.4.2. Fuse 7.10.1 の BOM ファイル	19
4.4.3. Fuse 7.10 の BOM ファイル	19
4.5. 重要事項	20
第5章 非推奨となった機能および削除された機能	21
5.1. 非推奨	21
5.2. FUSE 7.10 で削除された機能	21
5.3. FUSE 7.8 で削除された機能	22
5.4. FUSE 7.5 で削除された機能	22
5.5. FUSE 7.3 で削除された機能	22
5.6. FUSE 7.2 で削除された機能	23
5.7. FUSE 7.0 で削除された機能	23
5.8. FUSE 7.0 で置き換えられた機能	24
第6章 FUSE 7.10 でサポートされない機能	25
第7章 既知の問題	26
7.1. CVE セキュリティ脆弱性	26
7.2. FUSE ONLINE	29
7.3. FUSE ON OPENSIFT	30

7.4. FUSE ON APACHE KARAF	31
7.5. FUSE ON JBOSS EAP	32
7.6. FUSE TOOLING	32
7.7. APACHE CAMEL	32
第8章 FUSE 7.10 の問題を修正	34
8.1. FUSE 7.10 で改良された機能	34
8.2. FUSE 7.10 の機能リクエスト	35
8.3. FUSE 7.10 のコンポーネントアップグレード	35
8.4. FUSE 7.10、7.10.1、および 7.10.2 で解決されたバグ	36

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[CTO である Chris Wright のメッセージ](#) をご覧ください。

第1章 FUSE 7.10 の製品概要

1.1. FUSE のディストリビューション

Fuse 7.10 は、以下の3つのディストリビューションで提供されます。

Fuse スタンドアロン

複数のオペレーティングシステム上でサポートされる従来の Fuse ディストリビューションです。このディストリビューションは以下のコンテナタイプでサポートされます。

- Apache Karaf
- JBoss Enterprise Application Platform (EAP)
- Spring Boot

Fuse on OpenShift

OpenShift でインテグレーションアプリケーションを実行するための Fuse ディストリビューションです (Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムでサポートされます)。このディストリビューションでは、サポートされるコンテナタイプは docker 形式のコンテナイメージで提供されます。

- Java イメージ (Spring Boot 用)
- Apache Karaf イメージ
- JBoss EAP イメージ

Fuse Online

ブラウザベースの UI を使用して簡単なワークフローにアクセスできる、インテグレーション初心者向けの Fuse ディストリビューションです。このディストリビューションは以下のようなデプロイメントで使用できます。

- OpenShift Dedicated (OSD) クラスター上
- オンプレミス OpenShift クラスターのインストール

1.2. 新機能

Fuse 7.10 には、主要なコンポーネントのアップグレードや新機能が多く含まれています。詳細は、各 Fuse ディストリビューションの「**新機能**」のセクションを参照してください。

- [Fuse Online の新機能](#)
- [Fuse on OpenShift の新機能](#)
- [Fuse スタンドアロンの新機能](#)

1.3. FUSE 7.10.1 に関する事項

Fuse on OpenShift 7.10.1 では、イメージストリームの BASEURL は https://raw.githubusercontent.com/jboss-fuse/application-templates/application-templates-2.1.0.fuse-sb2-7_10_1-00010-redhat-00001 です。

Fuse Online の場合、Fuse Online 7.9.x から 7.10.1 にアップグレードするには、「[Fuse Online 7.9.x から 7.10.x にアップグレードするには、手動によるアップグレード手順が必要](#)」の手順に従ってください。

Fuse スタンドアロンの場合、「[Fuse 7.10.1 の BOM ファイル](#)」に一覧表示されている対応する BOM バージョンに 7.10.1 `fuse.version` プロパティを設定します。

「[Fuse 7.10、7.10.1、および 7.10.2 で解決されたバグ](#)」も参照してください。

1.4. FUSE 7.10.2 NOTES

Fuse on OpenShift 7.10.2 では、イメージストリームの BASEURL は https://raw.githubusercontent.com/jboss-fuse/application-templates/application-templates-2.1.0/fuse-sb2-7_10_2-00001-redhat-00001 です。

Fuse Online で Fuse Online 7.9.x から 7.10.2 にアップグレードするには、「[Fuse Online 7.9.x から 7.10.x にアップグレードするには、手動によるアップグレード手順が必要](#)」の手順に従います。

Fuse スタンドアロンでは、「[Fuse 7.10.2 の BOM ファイル](#)」に記載されているとおりに 7.10.2 `fuse.version` プロパティを対応する BOM バージョンに設定します。

「[Fuse 7.10、7.10.1、および 7.10.2 で解決されたバグ](#)」も参照してください。

1.5. 重要事項

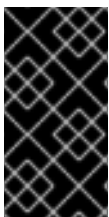
Fuse 7.10 には、Log4j 2.x セキュリティ問題 [CVE-2021-44228](#) (一般に Log4Shell として知られる) の修正が含まれています。

Fuse 7.10.1 には、Log4j 2.x セキュリティ問題に対する以下の修正も含まれています。

- [CVE-2021-4104](#)
- [CVE-2022-23307](#)
- [CVE-2022-23302](#)
- [CVE-2022-23305](#)

Fuse 7.10.2 には、Spring MVC セキュリティ問題の修正、[CVE-2022-22965](#) (Spring4Shell として知られる) が含まれます。

1.6. SUPPORTED CONFIGURATIONS



重要

Apache Karaf で Fuse を実行する場合は、OpenJDK 8u282 または OpenJDK 8u302 が推奨されます。クレデンシャルストアに影響する既知の問題が存在する OpenJDK 8u292 は使用しないでください ([ENTESB-16417](#) を参照してください)。OracleJDK 1.8.0_291 もこの問題の影響を受けます。

バージョン 7.10 でサポートされる構成、標準仕様、およびコンポーネントに関する詳細は、以下のカスタマーポータルの記事を参照してください。

- [Red Hat Fuse でサポートされる構成](#)

- [Red Hat Fuse でサポートされる標準](#)
- [Red Hat Fuse コンポーネントの詳細](#)

第2章 FUSE ONLINE

Fuse Online は、コードを作成せずに複数の異なるアプリケーションやサービスの統合を可能にする Web ブラウザーインターフェースを提供します。また、複雑なユースケースで必要な場合にコードを追加できる機能も提供します。

Fuse Online では、OpenShift のインテグレーションは Apache Camel を使用する Spring Boot として実行されます。

2.1. FUSE ONLINE ディストリビューション

Fuse Online は Red Hat の Web ベースのインテグレーションプラットフォームです。[Syndesis](#) は Fuse Online のオープンソースプロジェクトです。Fuse Online は以下のような OpenShift 環境で実行されます。

ホスト環境	インストール
OpenShift Dedicated	Red Hat が Red Hat インフラストラクチャーに Fuse Online をインストールし、提供します。
OpenShift Container Platform	お客様がインストールし、管理します。

2.2. FUSE ONLINE 7.10 の新機能

Fuse Online 7.10 は以下の新機能を提供します。

- **Red Hat Managed Kafka への接続のサポート**
Red Hat Managed Kafka への接続をサポートするため、Kafka Message Broker コネクタには以下のフィールドが含まれます。
 - セキュリティープロトコル
 - SASL メカニズム
 - ユーザー名
 - パスワード
 - SASL ログインコールバックハンドラークラス
 - OAuth トークンエンドポイント URI
詳細は、『[Fuse Online のアプリケーションおよびサービスへの接続](#)』の「[Chapter 15 Connecting to Kafka](#)」を参照してください。
- **統合ラベル**
インテグレーションを保存するときに、1つ以上のラベルをこれに適用できます。ラベルは、後でフィルターし、OpenShift で選択するインテグレーション (または他の OpenShift リソース) に適用できるキーと値のペアタグです。たとえば、OpenShift admin ユーザーは、ラベルを使用して実行中の Pod またはデプロイメントの一覧をフィルタリングできます。
- **統合環境変数**
任意で、インテグレーションを保存するときに、Fuse Online がインテグレーション Pod に適用する1つ以上の環境変数を設定できます。これらの環境変数を使用して Spring Boot 設定オ

プションを設定できます。たとえば、**SERVER_MAX_HTTP_HEADER_SIZE**などを設定できます。手動で設定される既存の環境変数は保持されます。

インテグレーションを保存する際に、Fuse Online にこれらの環境変数を設定しても、たとえば、OpenShift Web コンソールインターフェースなどを介して手動で設定された他の環境設定が変更されたり、影響を受けたりしないことに注意してください。

- **Maven ミラーの設定**

インテグレーションをビルドするとき Fuse Online が Maven アーティファクトにアクセスするために使用する Maven リポジトリを指定できます。Syndesis カスタムリソースで、Maven リポジトリを **components:server:features:maven:mirror** 設定の値として指定します。

2.3. FUSE ONLINE 7.10 での変更点

Fuse Online 7.10 では、Fuse Online 7.9 の機能が以下のように変更されました。

- **サンプル Postgres データベースを有効にするには、todo addon オプションを使用する**

以前のリリースで、Fuse Online インストールにサンプルデータベースおよびサンプルデータベースコネクタを含める場合は、Fuse Online カスタムリソースに **demoData** オプションを設定します。Fuse Online 7.10 以降では、インテグレーションをテストするためのサンプル Todo アプリケーションが含まれる **todo addon** オプションを設定して、サンプルデータベースおよびコネクタを有効にします。

- **Kafka ブローカー URI は、AMQ Streams 用に自動検出される**

AMQ Streams (API バージョン v1beta1 または v1beta2) を使用する場合、Fuse Online で新しい Kafka Message Broker コネクションを作成すると、Kafka Broker URI は自動検出され、Kafka Broker URI ドロップダウンリストに表示されます。

- **非接続環境では、環境変数を設定する必要がある**

Fuse Online が非接続環境でインストールおよび作業するには、以下の環境変数を **syndesis-oauthproxy** に設定する必要があります。

- **HTTPS_PROXY**
- **HTTP_PROXY**
- **NO_PROXY**

- **deployIntegrations フラグは利用不可能となる**

インテグレーションがデプロイされたかどうかを制御する Fuse Online カスタムリソースの **deployIntegrations** オプションが削除されました。

2.4. FUSE ONLINE 7.9.X から 7.10.X にアップグレードするには、手動によるアップグレード手順が必要

Fuse Online 7.9.x をインストールし、Fuse Online 7.10.x にアップグレードする場合は、最初に Fuse Online 7.10.0 に手動でアップグレードする必要があります。

1. OpenShift Container Platform Web コンソールの **Administrator** パースペクティブで、**Operators > Installed Operators** に移動します。
2. **Red Hat Integration Fuse Online 7.9.3 Operator** をクリックします。
3. **Subscription** タブをクリックします。

4. **Update approval** が **Manual** に設定されていることを確認します。
 - **Update approval** が **Manual** に設定されている場合には、次の手順に進みます。
 - **Update approval** が **Automatic** に設定されている場合は、以下を実行します。
 - a. **Automatic** をクリックします。
 - b. **Change Update Approval Strategy** ダイアログで **Manual** を選択し、**Save** をクリックします。
5. **Update channel** で **7.9.3** をクリックします。
6. **Change subscription update channel** で **7.10.x** を選択します。
注記: **latest**、**candidate**、および **stable** チャンネルは、テクノロジープレビュー機能です。
7. **Upgrade status** で **Upgrade available** をクリックします。
8. **Preview InstallPlan** をクリックしてから、**Approve** をクリックします。
9. Operator が Fuse Online 7.10.0 へのアップグレードを完全に完了していることを確認します。
 - a. **Operators > Installed Operators** ページに移動し、**Red Hat Integration Fuse Online** をクリックします。**Operator Details** ページが開きます。
 - b. **Sydnesis** タブを選択します。Fuse Online インスタンスのステータス（デフォルト名は **app**）は、最初に **Installed** を表示します（Fuse Online 7.9.3 がインストールされていることを示すため）。続いて、いくつかのフェーズ (**Installing**、**Starting**、および **Installed**) に進みます。**Installed** フェーズに再び到達すると、7.10.0 へのアップグレードが完了します。
10. **Operators > Installed Operators** ページに戻り、**Red Hat Integration Fuse Online Operator** の **Upgrade available** をクリックします。
11. **Preview InstallPlan** をクリックしてから、**Approve** をクリックします。
12. Operator が Fuse Online 7.10.x へのアップグレードを完全に完了していることを確認します。
 - a. **Networking > Routes** に移動してから、**sydnesis** の場所リンクをクリックして、Fuse Online Web コンソールを開きます。
 - b. Fuse Online コンソールの右上隅にある ? アイコンをクリックしてから **About** を選択します。
 - c. **About** ページにバージョン番号に **7_10_x** が含まれていることを確認します。

2.5. FUSE ONLINE インテグレーションのアップグレード

オンサイトの OCP で稼働している Fuse Online 環境をアップグレードするには、「[OCP での Fuse Online のアップグレード](#)」の説明どおりに、Operator を使用して、稼働中のインテグレーションを再パブリッシュすることで Fuse Online を更新する必要があります。

OCP 4.9 では、Operator を使用して 7.10 にアップグレードすると、Fuse Online Operator のアップグレードプロセス中に以下の警告が表示されます。

```
W1219 18:38:58.064578 1 warnings.go:70] extensions/v1beta1 Ingress is deprecated in v1.14+,
unavailable in v1.22+; use networking.k8s.io/v1 Ingress
```

この警告は、クライアント（Fuse Online が Kubernetes/OpenShift API 初期化コードに使用する）が非推奨の Ingress バージョンにアクセスするために表示されます。この警告は、非推奨の API が完全に使用されていることを示すものではなく、Fuse Online 7.10 へアップグレードすることに問題はありませ

2.6. FUSE ONLINE での重要事項

Fuse Online ディストリビューションの Fuse 7.10 リリースにおける重要事項

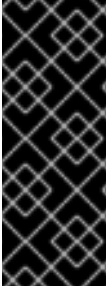
- Fuse Online は Camel K ランタイムまたは KNative コネクタをサポートしなくなりました。
- Fuse Online が Red Hat インフラストラクチャーにインストールされ、プロビジョニングされる場合、アカウントは同時に実行可能な特定数のインテグレーションに制限されます。詳細は、価格プランを参照してください。
- Fuse Online にアップロードする OpenAPI スキーマに出入カタイプが定義されていないことがあります。Fuse Online が出入カタイプを指定しない OpenAPI からカスタム API クライアントを作成した場合、API クライアントが処理できるフィールドにインテグレーションデータをマップするインテグレーションや、API クライアントが処理したフィールドから統合データをマップするインテグレーションを作成できません。インテグレーションにカスタム API をマップ先またはマップ元とするマッピングが必要な場合、OpenAPI スキーマをアップロードするときに **Review/Edit** をクリックして API 編集ツールの API Designer を開き、出入カタイプの指定を追加します。
- Fuse 7.8 以降、カスタム API クライアントコネクタまたは API プロバイダーインテグレーションに使用する OpenAPI ドキュメントは、循環スキーマ参照を持つことができません。たとえば、リクエストまたは応答ボディを指定する JSON スキーマは、そのスキーマ自体を全体的に参照することはできず、任意数の中間スキーマを介してそれ自体を部分的に参照することもできません。
- OCP 4.9 (またはそれ以降) では、**application-monitoring** プロジェクトは機能しなくなりました。これは、Prometheus および Grafana で Fuse Online インテグレーションおよびインフラストラクチャーコンポーネントを監視するための前提条件です。
この問題を回避するには、(**openshift-monitoring** namespace で) **ビルトインの OpenShift モニタリングスタック** を使用して **openshift-user-workload-monitoring** 機能および **grafana-operator** を使用し、以下の OCP 4.9 (またはそれ以降) に **Fuse Online 監視リソース (Prometheus および Grafana)** を追加する の手順の説明にあるように、**ops addon** を使用します。

2.7. FUSE ONLINE のテクニカルサポートの利用

テクニカルサポートを利用するには、Fuse Online コンソールの左ナビゲーションパネルで **Support** をクリックします。Support ページを使用して、すべてのインテグレーションに関する診断情報や、選択した1つまたは複数のインテグレーションに関する診断情報をダウンロードします。このページには、サポートチケットを作成するためのリンクや、ダウンロードした診断情報を提供するためのリンクもあります。

2.8. FUSE ONLINE のテクノロジープレビュー機能

本リリースには、以下に示すテクノロジープレビュー機能が含まれています。



重要

テクノロジープレビューの機能は、Red Hat の本番環境のサービスレベルアグリーメント (SLA) ではサポートされず、機能的に完全ではないことがあるため、Red Hat は本番環境での使用は推奨しません。テクノロジープレビューの機能は、最新の技術をいち早く提供して、開発段階で機能のテストやフィードバックの収集を可能にするために提供されます。詳細は、「[テクノロジープレビュー機能のサポート範囲](#)」を参照してください。

- **データマッパーが CSV データをサポートする**

データシェイプを定義できるアクションを持つ Fuse Online コネクタの場合、(JSON スキーマ、JSON インスタンス、XML スキーマ、または XML インスタンスを指定するオプションに加え) CSV インスタンスをオプションで指定できるようになりました。たとえば、Webhook コネクションでは、CSV ファイルをアクションのデータ出力タイプとして指定できます。

- **Fuse Online の監査**

Fuse Online は、ユーザーが次の Fuse Online コンポーネントに対して行った変更の基本的な監査をサポートしています。

- **コネクション - Name** および Fuse Online Web コンソールのコネクタの **Details** ページに表示されるその他のフィールド。
- **コネクタ - Name** フィールド。
- **インテグレーション - Name** フィールド。

- **データフィールドをマッピングするための条件式**

データマッパーでは、条件式を指定し、データマッピングに適用することができます。たとえば、条件式はソースフィールドの評価や、ソースフィールドが空の場合にターゲットフィールドに入力する方法を指定できます。指定できる式の限定セットは、Microsoft Excel の式に似ています。

- **データマッパーでのユーザー定義プロパティのドキュメントスコープ**

データマッパーでは、ソースおよびターゲットマッピングに定義するプロパティのスコープを指定できます。Mapping Details パネルで、Properties の横にある Add (+) をクリックします。Create Property ダイアログで、新しい Scope オプションの場合は、現在のメッセージヘッダー、前のステップからメッセージヘッダー、または Camel 固有のプロパティの Camel Exchange Property を選択できます。

- **OAuth を使用する REST API クライアントでは、API クライアントコネクタの作成時に、そのコネクタから作成するコネクションのデフォルト OAuth2 の動作を変更することができます。** OpenAPI 仕様への Fuse Online ベンダーエクステンションは以下をサポートします。

- クライアントクレデンシャルをパラメーターとして提供。
- HTTP レスポンスステータスコードを基にした新しいアクセストークンの取得。

第3章 FUSE ON OPENSIFT

Fuse on OpenShift は、OpenShift Container Platform での Fuse アプリケーションのデプロイを可能にします。

3.1. OPENSIFT のサポート対象バージョン

Fuse on OpenShift と使用する OpenShift Container Platform のサポート対象バージョンについては「[Red Hat Fuse でサポートされる構成](#)」を参照してください。

3.2. サポートされるイメージ

Fuse on OpenShift は以下の Docker 形式のイメージを提供します。

イメージ	プラットフォーム	サポートされているアーキテクチャー
fuse7/fuse-java-openshift-rhel8	Spring Boot	AMD64 および Intel 64 (x86_64)
fuse7/fuse-java-openshift-jdk11-rhel8	Spring Boot	AMD64 および Intel 64 (x86_64) IBM Z および LinuxONE (s390x) IBM Power Systems (ppc64le)
fuse7/fuse-karaf-openshift-rhel8	Apache Karaf	AMD64 および Intel 64 (x86_64)
fuse7/fuse-karaf-openshift-jdk11-rhel8	Apache Karaf	AMD64 および Intel 64 (x86_64)
fuse7/fuse-eap-openshift-jdk8-rhel7	Red Hat JBoss Enterprise Application Platform	AMD64 および Intel 64 (x86_64)
fuse7/fuse-eap-openshift-jdk11-rhel8	Red Hat JBoss Enterprise Application Platform	AMD64 および Intel 64 (x86_64)
fuse7/fuse-console-rhel8	Fuse console	AMD64 および Intel 64 (x86_64) IBM Z および LinuxONE (s390x) IBM Power Systems (ppc64le)
fuse7/fuse-console—rhel8-operator	Fuse console operator	AMD64 および Intel 64 (x86_64) IBM Z および LinuxONE (s390x) IBM Power Systems (ppc64le)
fuse7/fuse-apicurito-generator-rhel8	Apicurito REST アプリケーションジェネレーター	AMD64 および Intel 64 (x86_64)
fuse7/fuse-apicurito-rhel8	Apicurito REST API エディター	AMD64 および Intel 64 (x86_64)

イメージ	プラットフォーム	サポートされているアーキテクチャー
fuse7/fuse-apicurito-rhel8-operator	API Designer Operator	AMD64 および Intel 64 (x86_64)

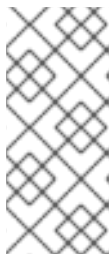
3.3. FUSE 7.10 ON OPENSIFT の新機能

Fuse on OpenShift のバージョン 7.10 では、以下の新機能が提供されます。

- Fuse Console のパフォーマンスチューニング (OpenShift 4.x のみ)
clientBodyBufferSize、**proxyBuffers**、および **subrequestOutputBufferSize** 環境変数のいずれかを設定することにより、Fuse Console のパフォーマンスを調整できます。

注記: この機能は OpenShift 3.11 ではサポートされません。

- JDK11 のサポート
Fuse 7.10 は、JDK11 を使用して Fuse on OpenShift クイックスタートを構築するためのサポートを提供します。
- **openshift-maven-plugin** を使用したクイックスタートの実行
Fuse 7.10 は、Maven アーキタイプで Fuse on OpenShift クイックスタートをビルドして実行する際に、新しい **openshift-maven-plugin** を使用します。
- IBM Power Systems、IBM Z、および LinuxONE へのサポート
Fuse 7.10 は、Red Hat OpenShift Container Platform 4.9 以降で、IBM Power Systems(ppc64le)、IBM Z、および LinuxONE (s390x) のサポートを追加します。



注記

Fuse 7.10 では、Fuse on OpenShift イメージストリームおよびテンプレートを IBM Power Systems、IBM Z、および LinuxONE へインストールすることは、**サポートされていません**。Fuse on OpenShift Operator でインストールできるコンポーネントのみが IBM Power Systems、IBM Z、および LinuxONE でサポートされます。

3.4. 重要事項

Fuse on OpenShift ディストリビューションの Fuse 7.10 リリースにおける重要事項

IBM Z および IBM Power Systems の OpenJ9 イメージが非推奨に

IBM Z および IBM Power Systems の OpenJ9 イメージは、Fuse 7.10 で非推奨になりました。OpenJDK11 Builder および Runtime イメージが、複数のアーキテクチャーに対応するように更新されました。

Fuse 7.10 on OpenShift Container Platform (OCP) 4.9 へのサポート

Fuse 7.10 には、OpenShift Container Platform (OCP) 4.9 と連携できるようにする更新が含まれています。OCP 4.9 にアップグレードする場合は、OCP をバージョン 4.9 にアップグレードする **前**に、Fuse をバージョン 7.10 にアップグレードする必要があります。以前のバージョンの Fuse (7.10 より前) は OCP 4.9 をサポートしません。

Data Virtualization の削除

Data Virtualization は Fuse 7.7 で非推奨となり、Fuse 7.8 から削除されました。

Spring Boot 1 の削除

Spring Boot 1 は Fuse 7.7 で非推奨となり、Fuse 7.8 から削除されました。『[Spring Boot 2.0 Migration Guide](#)』の説明にしたがって、Spring Boot アプリケーションを Spring Boot 2 に移行することが推奨されます。

Fabric8 Maven プラグインの削除

Fabric8 Maven プラグインは Fuse 7.10 から完全に削除され、Fuse 7.10 以降は [OpenShift Maven プラグイン](#) に置き換えられています。OpenShift Maven プラグインを使用してアプリケーションを構築およびデプロイします。

JDK11でのクイックスタートの実行

ランタイム時に JDK11 ベースのイメージを使用する場合は、コンパイル時に正しい JDK11 のプロファイルを使用します。JDK11 を使用してクイックスタートをビルドおよびデプロイする場合は、ビルドマシンに JDK11 をインストールし、正しい JDK11 プロファイルを使用してクイックスタートを構築してください。

eap-camel-jpa クイックスタートの削除

依存関係の問題により、**eap-camel-jpa** クイックスタートが Fuse 7.8 から削除されました。

Fuse 7.8 での Jolokia の外部アクセス不可

Fuse 7.8 より、Jolokia のデフォルトプロトコルは HTTP から HTTPS に変更されました。

第4章 FUSE スタンドアロン

4.1. サポートされるコンテナ

Fuse スタンドアロン 7.10 は以下のランタイムコンテナでサポートされます。

- Spring Boot 2 (スタンドアロン)
- Apache Karaf
- Red Hat JBoss Enterprise Application Platform (JBoss EAP)

4.2. FUSE 7.10 の新機能

Fuse スタンドアロンのバージョン 7.10 の主な新機能は次のとおりです。

Java 11 は Apache Karaf でサポートされています。

Java 11 が Apache Karaf ランタイムでサポートされるようになりました。

4.3. テクノロジープレビューの機能

以下の Fuse スタンドアロンの機能は **テクノロジープレビューであるため**、Fuse 7.10 ではサポートされません。

Saga EIP

Saga EIP (Enterprise Integration Pattern) はテクノロジープレビューの機能で、実稼働環境に適していない **インメモリ Saga サービスのみが対象**になります。LRA Saga サービスはサポートされません。詳細は『[Apache Camel Development Guide](#)』の「[Saga EIP](#)」を参照してください。

4.3.1. Apache Camel の Fuse Tooling サポート

Fuse Tooling は、Apache Camel 言語サポートエクステンションや、Visual Studio Code、Eclipse IDE、および Eclipse Che のプラグインを使用して、Camel アプリケーションの開発でクロスプラットフォームおよびクロス IDE を提供します。

注記: これらの機能は、デフォルトで Red Hat CodeReady Studio の Fuse Tooling に含まれています。

Visual Studio Code の機能



注記

VS Code Apache Camel エクステンションはコミュニティの機能です。Red Hat のサポート対象外となります。

[Language Support for Apache Camel](#) エクステンションは、以下のような Camel URI の機能を提供します。

XML DSL および Java DSL の場合:

- VS Code の **Outline** パネルおよび **Go > Go to Symbol in File** ナビゲーションパネルで、エンドポイントに移動できます。

- エディターは入力時に Camel コンポーネント、属性、および属性値のリストでコード補完を提供します。
- Camel コンポーネントにマウスオーバーすると、エディターにコンポーネントの簡単な説明が表示されます ([Apache Camel component reference](#) から)。
- ファイルを編集すると、エディターは Camel コードで Apache Camel 検証チェックを実行します。
- **File** → **Preferences** → **Settings** → **Apache Camel Tooling** → **Camel catalog version**と選択すると、特定の Camel Catalog 指定できます。
- 「Quick fix」(クリック修正)機能を使用して、無効な列挙値や未知の Camel URI コンポーネントプロパティーに対応できます。

XML DSL の場合のみ:

- VS Code の **Outline** パネルおよび **Go > Go to Symbol in File**ナビゲーションパネルで、Camel コンテキストおよびルートに移動できます。
- エディターは入力時に **direct**、**direct VM**、**VM**、および **SEDA** コンポーネントの参照された ID に対し、コード補完を提供します。
- 開いているすべての Camel ファイルで **direct** および **direct VM** コンポーネントの参照を見つけることができます。

プロパティーの場合:

- Camel コンポーネントプロパティーの完了
- 診断

Language Support for Apache Camel機能にアクセスするには、エクステンションを1つ以上追加します。

[Apache Camel Extension Pack](#) によって以下の VS Code エクステンションがインストールされます。

- [Language Support for Apache Camel](#)
- [OpenShift Connector](#)
- [Java Extension Pack](#)
- [Spring Boot Extension Pack](#)
- [Project Initializer by Red Hat](#)
- [XML Language Support](#)
- [AtlasMap Data Transformation editor](#)
- [Didact Tutorial](#)
- [Tooling for Apache Camel K](#)

エクステンションを個別にインストールすることもできます。

詳細は、以下の README ファイルを参照してください。

- [Apache Camel Extension Pack](#) の README ファイル。
- [Apache Camel Language Server Protocol for Visual Studio Code](#) の README ファイル。
- [AtlasMap Data Transformation エディター](#) の README

Eclipse IDE 機能

Language Support for Apache CamelEclipse プラグインは Camel URI に以下の機能を提供します。

XML DSL および Java DSL 両方の汎用 Eclipse テキストエディターの場合:

- エディターは入力時に Camel コンポーネント、属性、および属性値のリストでコード補完を提供します。
- Camel コンポーネントにマウスオーバーすると、エディターにコンポーネントの簡単な説明が表示されます ([Apache Camel component reference](#) から)。

Language Support for Apache Camel機能にアクセスするには、Eclipse Marketplace から Eclipse プラグインをインストールします。詳細は、[Apache Camel Language Server Protocol for Eclipse IDE の README file](#) を参照してください。

Eclipse Che の機能

Eclipse Che 7 の **Language Support for Apache Camel**プラグインは、XML DSL および Java DSL で Camel URI の機能を提供します。

- エディターは入力時に Camel コンポーネント、属性、および属性値のリストでコード補完を提供します。
- Camel コンポーネントにマウスオーバーすると、エディターにコンポーネントの簡単な説明が表示されます ([Apache Camel component reference](#) から)。
- ファイルを保存すると、エディターによって Camel コードで Apache Camel 検証チェックが実行されます。

Eclipse Che に対してこのプラグインをアクティベートするには、「Apache Camel based on Spring Boot」スタックまたはワークスペース設定を使用します。

4.4. FUSE 7.10、FUSE 7.10.1、および FUSE 7.10.2 の BOM ファイル

サポートされる Fuse 7.10、7.10.1、および 7.10.2 アーティファクトを使用するように Maven プロジェクトを設定するには、本セクションで説明する BOM バージョンを使用してください。

4.4.1. Fuse 7.10.2 の BOM ファイル

Fuse スタンドアロンアプリケーションをアップグレードして 7.10.2 の依存関係を使用するには、Maven の **pom.xml** を編集し、下表にある BOM と Maven プラグインのバージョンを変更します。

表4.1 BOM を使用する 7.10.2 の Maven BOM およびプラグインバージョン

コンテナタイプ	Maven BOM またはプラグインアーティファクト groupId/artifactId	Fuse 7.10 のバージョン
---------	--	------------------

コンテナタイプ	Maven BOM またはプラグインアーティファクト groupId/artifactId	Fuse 7.10 のバージョン
Spring Boot 2	org.jboss.redhat-fuse/fuse-springboot-bom	7.10.0.fuse-sb2-7_10_2-00001-redhat-00002
	org.jboss.redhat-fuse/spring-boot-maven-plugin	7.10.0.fuse-sb2-7_10_2-00001-redhat-00002
Apache Karaf	org.jboss.redhat-fuse/fuse-karaf-bom	7.10.0.fuse-sb2-7_10_2-00001-redhat-00002
	org.jboss.redhat-fuse/karaf-maven-plugin	7.10.0.fuse-sb2-7_10_2-00001-redhat-00002
JBoss EAP	org.jboss.redhat-fuse/fuse-eap-bom	7.10.0.fuse-sb2-7_10_2-00001-redhat-00002

BOM の使用に関する詳細は『[Fuse Migration Guide](#)』を参照してください。

4.4.2. Fuse 7.10.1 の BOM ファイル

Fuse スタンドアロンアプリケーションをアップグレードして 7.10.1 の依存関係を使用するには、Maven の **pom.xml** を編集し、下表にある BOM と Maven プラグインのバージョンを変更します。

表4.2 Maven BOM および BOM を使用した 7.10.1 のプラグインバージョン

コンテナタイプ	Maven BOM またはプラグインアーティファクト groupId/artifactId	Fuse 7.10 のバージョン
Spring Boot 2	org.jboss.redhat-fuse/fuse-springboot-bom	7.10.0.fuse-sb2-7_10_1-00008-redhat-00001
	org.jboss.redhat-fuse/spring-boot-maven-plugin	7.10.0.fuse-sb2-7_10_1-00008-redhat-00001
Apache Karaf	org.jboss.redhat-fuse/fuse-karaf-bom	7.10.0.fuse-sb2-7_10_1-00008-redhat-00001
	org.jboss.redhat-fuse/karaf-maven-plugin	7.10.0.fuse-sb2-7_10_1-00008-redhat-00001
JBoss EAP	org.jboss.redhat-fuse/fuse-eap-bom	7.10.0.fuse-sb2-7_10_1-00008-redhat-00001

BOM の使用に関する詳細は『[Fuse Migration Guide](#)』を参照してください。

4.4.3. Fuse 7.10 の BOM ファイル

Fuse スタンドアロンアプリケーションをアップグレードして 7.10 の依存関係を使用するには、Maven の **pom.xml** を編集し、下表にある BOM と Maven プラグインのバージョンを変更します。

表4.3 BOM を使用する 7.10 の Maven BOM およびプラグインバージョン

コンテナタイプ	Maven BOM またはプラグインアーティファクト groupId/artifactId	Fuse 7.10 のバージョン
Spring Boot 2	org.jboss.redhat-fuse/fuse-springboot-bom	7.10.0.fuse-sb2-7_10_0-00014-redhat-00001
	org.jboss.redhat-fuse/spring-boot-maven-plugin	7.10.0.fuse-sb2-7_10_0-00014-redhat-00001
Apache Karaf	org.jboss.redhat-fuse/fuse-karaf-bom	7.10.0.fuse-sb2-7_10_0-00014-redhat-00001
	org.jboss.redhat-fuse/karaf-maven-plugin	7.10.0.fuse-sb2-7_10_0-00014-redhat-00001
JBoss EAP	org.jboss.redhat-fuse/fuse-eap-bom	7.10.0.fuse-sb2-7_10_0-00014-redhat-00001

BOM の使用に関する詳細は『[Fuse Migration Guide](#)』を参照してください。

4.5. 重要事項

Fuse スタンドアロンディストリビューションの Fuse 7.10 リリースにおける重要事項

Java 11 は Apache Karaf でサポートされています。

Fuse 7.10 リリースは、Apache Karaf ランタイムで Java 11 をサポートするようになりました。

MongoClients ファクトリーを使用した MongoDB への接続の作成

Fuse 7.10 から、**com.mongodb.MongoClient** の代わりに **com.mongodb.client.MongoClient** を使用して、MongoDB への接続を作成します（フルパスの追加の **.client** サブパッケージに注意してください）。

これは、**camel-mongodb** を使用するすべてのユーザーアプリケーションに影響します。この場合、接続 Bean を **com.mongodb.client.MongoClient** インスタンスとして作成する必要があります。さらに、このクラスで公開されるメソッドは古いクラスとまったく同じではありません。そのため、ユーザーコードのリファクタリングがより多く必要になる場合があります。

たとえば、以下のように MongoDB への接続を作成します。

```
import com.mongodb.client.MongoClient;
```

以下の例のように MongoClient Bean を作成できます。

```
return MongoClient.create("mongodb://admin:password@192.168.99.102:32553");
```


第5章 非推奨となった機能および削除された機能

Fuse 7 の今後の変更に関するご質問やヘルプは、support@redhat.com にお問い合わせください。

5.1. 非推奨

以下の機能は Fuse 7.10 で非推奨となったため、今後のリリースで削除される可能性があります。

OpenWire プロトコルが非推奨となる

Fuse 7.10以降、OpenWireプロトコル（AMQ ブローカーインスタンスの接続に使用可能）の使用は非推奨になりました。OpenWire プロトコルは、AMQ Broker バージョン 7.9.0 以降 AMQ Broker でも非推奨になることに注意してください。

wsdl2rest ツールが非推奨となる

Fuse 7.10 以降、**wsdl2rest** コマンドラインツールは非推奨となりました。VS Code の WSDL 2 Camel Rest DSL エクステンションも非推奨となりました。

OCP 4 インストールの Fuse Online インストールスクリプト

Fuse 7.8 より OpenShift Container Platform (OCP) 4.x バージョン上に Fuse Online をインストールする場合に Fuse Online のインストールスクリプトは非推奨となりました。OCP 4.x バージョンでは、Fuse Online Operator の使用が推奨されます。OCP 3.11 に Fuse Online をインストールする場合は、Fuse Online のインストールスクリプトは引き続きサポートされます。

Camel アプリケーションで非推奨となった PHP、Python、および Ruby スクリプト言語

PHP、Python、および Ruby スクリプト言語は、Fuse 7.4 より Camel アプリケーションで非推奨となり、今後のリリースで削除される予定です。Camel コミュニティーでは、Camel 2.19 より PHP、Python、および Ruby が非推奨になりました ([CAMEL-10973](#) を参照)。これは、Apache Karaf、JBoss EAP、および Spring Boot のすべての Fuse コンテナタイプに適用されます。

非推奨となった HP-UX OS

HP-UX オペレーティングシステムは Fuse 7.2 より非推奨となり、このオペレーティングシステムのサポートは Fuse の今後のリリースで除外される可能性があります。JBoss EAP 7.2 コンテナではすでに HP-UX のサポートが除外されたため、JBoss EAP 7.2 で実行される Fuse on JBoss EAP の今後のバージョンは HP-UX ではサポートされません。

非推奨となった Camel MQTT コンポーネント

Camel MQTT コンポーネントは Fuse 7.0 で非推奨となり、Fuse の今後のリリースでは削除されません。このコンポーネントの代わりに、[Eclipse Paho](#) ライブラリーを使用して MQTT メッセージングプロトコルをサポートする Camel Paho コンポーネントを使用できます。

Linux 以外のオペレーティングシステムで非推奨となった Camel LevelDB コンポーネント

Camel LevelDB ([camel-leveldb](#)) コンポーネントは、Fuse 6.3 より Red Hat Enterprise Linux 以外のすべてのオペレーティングシステムで非推奨となりました。今後、Camel LevelDB コンポーネントは Red Hat Enterprise Linux でのみサポートされます。

非推奨となった Camel SJMS コンポーネントからの BatchMessage クラス

Camel SJMS コンポーネントからの BatchMessage クラスは Fuse 7 で非推奨となり (Apache Camel ではバージョン 2.17 より非推奨)、Apache Camel および Fuse の今後のバージョンで削除される可能性があります。

5.2. FUSE 7.10 で削除された機能

fabric8-maven-plugin

fabric8-maven-plugin は Fuse 7.10 から完全に削除されました。Fuse on OpenShift で Maven プロジェクトをビルドおよびデプロイに代わりに **openshift-maven-plugin** を使用することが推奨されます。プラグインは Eclipse jKube によって管理されており、プラグインに関する多くの [ドキュメント](#)

トが提供されています。

5.3. FUSE 7.8 で削除された機能

Spring Boot 1

Spring Boot 1 は Fuse 7.8 ではサポート対象外になりました。『[Spring Boot 2.0 Migration Guide](#)』の説明にしたがって、Spring Boot アプリケーションを Spring Boot 2 に移行することが推奨されます。

Fuse Online の Camel K ランタイム

Fuse Online の Camel K ランタイム (テクノロジープレビュー機能) は Fuse 7.8 ではサポート対象外になりました。

7.8 で削除された Camel XmlJson コンポーネント

Camel XmlJson(**camel-xmljson**)コンポーネントは Fuse 7.8 で削除されました。

5.4. FUSE 7.5 で削除された機能

以下の機能は Fuse 7.5 で削除されました。

7.5 で廃止された MS SQL Server 2014 とのインテグレーションに対するサポート

MS SQL Server 2014 の Fuse 7.5 とのインテグレーションはテストおよびサポート対象外になりました。代わりに、MS SQL Server 2016 や 2017 などのより最近のバージョンの MS SQL Server を使用することが推奨されます。

7.5 で削除された Camel LinkedIn コンポーネント

camel-linkedin コンポーネントは Fuse 7.5 で削除されました。



重要

Fuse 7.5 で削除された **camel-linkedin** コンポーネントは、今後のリリースで復元される可能性があります。

5.5. FUSE 7.3 で削除された機能

以下の機能は Fuse 7.3 で削除されました。

7.3 で削除された Camel YQL コンポーネント

Camel YQL コンポーネントは Fuse 7.3 で削除されました。

7.3 で削除された OpenJPA および OpenJPA3 Karaf 機能

openjpa 機能および **openjpa3** 機能は、7.3 の Apache Karaf コンテナから削除されました。Java Persistence Architecture (JPA) 実装では、代わりにサポートされる **hibernate** 機能を使用してください。

7.3 で削除された camel-jetty Karaf 機能

camel-jetty 機能は Jetty 8 を使用するため、7.3 の Apache Karaf コンテナから削除されました。この代わりに **camel-jetty9** 機能を使用してください。

7.3 で削除された pax-jms-oracleaq Karaf 機能

サードパーティーの無償ではない Oracle AQ ライブラリーが必要なため、**pax-jms-oracleaq** 機能は 7.3 の Apache Karaf コンテナから削除されました。

7.3 の Fuse on EAP (Wildfly Camel) から削除された camel-elasticsearch コンポーネント

camel-elasticsearch コンポーネントは 7.3 の Fuse on EAP (Wildfly Camel) から削除されました。代わりに新しい **camel-elasticsearch-rest** コンポーネントを使用してください。

5.6. FUSE 7.2 で削除された機能

以下の機能は Fuse 7.2 で削除されました。

7.2 で削除された Camel XMLRPC コンポーネント

Camel XMLRPC コンポーネントは Fuse 7.2 で削除されました。

7.2 で削除された Camel Netty コンポーネント

Camel Netty コンポーネントは Fuse 7.2 で削除されました。この代わりに Camel Netty4 コンポーネントを使用することが推奨されます。

5.7. FUSE 7.0 で削除された機能

以下の機能は Fuse 7.0 で削除されました。

7.0 でサポートが除外された Red Hat JBoss Operations Network (JON)

Fuse 7.0 より Fuse on Karaf は JON をサポートしなくなり、JON ランタイムと統合するための JON プラグインの提供を停止しました。

7.0 で削除された組み込み ActiveMQ ブローカー

Fuse 7.0 より Fuse on Karaf は組み込み ActiveMQ ブローカーの提供を停止しました。そのため、サポートされるリモートブローカーへ直接接続するようにしてください。サポートされるブローカーの詳細は「[Red Hat Fuse でサポートされる構成](#)」の「サポートされるメッセージングプロバイダー」を参照してください。

7.0 で削除された Fuse インテグレーションパック

ルールやプロセスの実行に対するサポートは、Red Hat JBoss BPM Suite および Red Hat JBoss BRMS に含まれるコンポーネントによって提供されます。

7.0 で削除された子コンテナ管理用の Karaf コンソールコマンド

Fuse 7.0 より、子コンテナ管理用の Karaf コンソールコマンドはサポートされて **いません**。対象となる **instance:** (Karaf 4.x 構文) で始まるコンソールコマンドと、**admin:** (Karaf 2.x 構文) で始まるコンソールコマンドはサポートされません。



注記

Fuse 7.0 GA リリースでは、**instance:** コマンドは削除されていません。これは既知の問題です。

7.0 で削除された Switch Yard

Switch Yard は Fuse 7.0 で削除され、代わりに Apache Camel を直接使用する必要があります。詳細は、ナレッジベースの「[SwitchYard Support Plan After Releasing Fuse 7](#)」を参照してください。

7.0 で除外された Fabric8 1.x のサポート

Fuse 7.0 で Fabric8 v1 は Fabric8 v2 のコンポーネントが含まれる Fuse on OpenShift (旧名称 Fuse Integration Services) に置き換えられました。Fuse on OpenShift は、OpenShift 内でインテグレーションマイクロサービスの開発、デプロイメント、および管理を可能にするツールのセットと Docker 形式のイメージを提供します。

Fuse on OpenShift のアーキテクチャーは異なりますが、Fabric 8 v1 が提供する同じプロビジョニング、自動化、中央構成、管理要件に対応します。詳細は『[Fuse on OpenShift ガイド](#)』を参照してください。

7.0で削除された Google App Engine の Camel コンポーネント

Google App Engine の Camel コンポーネント (**camel-gae**) は Fuse 7.0 で削除されました。

7.0で削除された Camel jBPM コンポーネント

Camel jBPM コンポーネント (**camel-jbpm**) は Fuse 7.0 で削除されました。

7.0で削除された Fuse をサービスとしてインストールするための Tanuki ベースのラッパー

Fuse をサービスとしてインストールするための Tanuki ベースのラッパースクリプト (**wrapper:install** Karaf コンソールコマンドを使用して生成) は Fuse 7.0 で削除されました。Apache Karaf コンテナをサービスとしてインストールする場合、この代わりに **bin/contrib** ディレクトリから新しい **karaf-service-*.sh** スクリプトを使用することが推奨されます。

7.0で削除された Smooks

Switch Yard の Smooks コンポーネントは Fuse 7.0 で削除されました。

7.0で削除された BPEL

[Riftsaw](#) プロジェクトをベースとする BPEL は Fuse 7.0 で削除されました。BPEL を現在使用している場合は、Red Hat JBoss BPM Suite への移行を考慮することが推奨されます。

7.0で削除された Design Time Governance

Design Time Governance コンポーネントは Fuse 7.0 で削除されました。

7.0で削除された Runtime Governance

Runtime Governance (RTGov) コンポーネントは Fuse 7.0 で削除されました。

7.0で削除された S-RAMP

S-RAMP (SOA Repository Artifact Model and Protocol) コンポーネントは Fuse 7.0 で削除されました。

7.0で削除された bin/patch スクリプト

bin/patch スクリプト (Windows O/S では **bin\patch.bat**) は Fuse 7.0 で削除されました。

7.0でサポートされない Spring-DM (Spring Dynamic Modules)

Spring XML を Apache Karaf の OSGi サービスレイヤーと統合する Spring-DM は Fuse 7.0 ではサポートされないため、代わりに Blueprint フレームワークを使用する必要があります。Blueprint XML を使用しても、Spring フレームワークから Java ライブラリーを使用することはできます。最新バージョンの Spring は Blueprint と互換性があります。

7.0でサポートされない Apache OpenJPA

JPA (Java Persistence API) の [Apache OpenJPA](#) 実装は Fuse 7.0 ではサポートされません。代わりに [Hibernate](#) 実装を使用することが推奨されます。

5.8. FUSE 7.0 で置き換えられた機能

以下の機能は Fuse 7.0 で置き換えられました。

7.0で置き換えられた Geronimo トランザクションマネージャー

Fuse 7.0 では Karaf コンテナの Geronimo トランザクションマネージャーが [Narayana](#) に置き換えられました。

7.0で置き換えられた Jetty コンテナ

Fuse 7.0 では Jetty コンテナが [Undertow](#) によって置き換えられました。この変更は最初に Jetty コンテナの内部使用のみ (Karaf コンテナ内など) に適用されます。他の Jetty コンポーネントは今後のリリースで削除される可能性があります。

第6章 FUSE 7.10 でサポートされない機能

以下の機能は、Red Hat Fuse 7.10 ではサポートされません。

camel-leveldb コンポーネントは、IBM PowerPC および Z プラットフォームの Fuse ではサポートされていません。

Fuse が IBM PowerPC または IBM Z プラットフォームにインストールされている場合、Camel LevelDB コンポーネントはサポートされません。

Operator を使用した Fuse Console のインストールは OCP 3.11 ではサポートされません。

Operator を使用した Fuse Console のインストールはサポートされておらず、OpenShift Container Platform (OCP) 3.11 では動作しません。OCP 3.11 に Fuse Console をインストールするための推奨方法は、テンプレートを使用することです。

サポートされない Apache Karaf EclipseLink 機能

Apache Karaf EclipseLink 機能は Fuse ではサポートされません。この機能は JPA 2.2 に依存しますが、Fuse 7.2 の Karaf コンテナは JPA 2.1 と関連しているからです。

サポートされない Apache Aries Blueprint Web モジュール

Apache Aries [Blueprint Web](#) モジュールは Fuse ではサポートされません。Apache Camel のコミュニティ版で Blueprint Web を使用している例がありますが (個別ダウンロードとして提供)、Fuse でのサポートを意味するものではありません。

Apache Karaf の Apache Camel でサポートされない PHP スクリプト言語

PHP の OSGi バンドルがないため、PHP スクリプト言語は Apache Karaf コンテナ上の Camel アプリケーションでサポートされません。PHP スクリプト言語は、JBoss EAP コンテナおよび Spring Boot コンテナ上の Camel アプリケーションでは非推奨になりました。

Apache Karaf の Apache Camel でサポートされない Python スクリプト言語

Python の OSGi バンドルがないため、Python スクリプト言語は Apache Karaf コンテナ上の Camel アプリケーションでサポートされません。Python スクリプト言語は、JBoss EAP コンテナおよび Spring Boot コンテナ上の Camel アプリケーションでは非推奨になりました。

第7章 既知の問題

以下の項ではバージョン 7.10 の既知の問題について説明します。

7.1 CVE セキュリティー脆弱性

Fuse はミドルウェア統合プラットフォームであるため、多くのサードパーティーコンポーネントと統合される可能性があります。そのため、サードパーティーの依存関係の一部にセキュリティーの脆弱性がある可能性を常に排除することは困難です。ここでは、Fuse 7.10 のサードパーティー依存関係に影響するセキュリティー関連の既知の CVE (Common Vulnerabilities and Exposures) を記載します。

CVE-2020-13936 CVE-2020-13936 velocity: arbitrary code execution when attacker is able to modify templates

Velocity テンプレートを変更できる攻撃者は、任意の Java コードを実行したり、Servlet コンテナを実行するアカウントと同じ権限で任意のシステムコマンドを実行する可能性があります。これは、信頼できないユーザーがバージョン 2.2 までの Apache Velocity Engine を実行している velocity テンプレートをアップロード/変更できるアプリケーションが該当します。

Fuse 7.9 (およびそれ以降) では、このセキュリティーの脆弱性から保護するために修正された Velocity バージョン (バージョン 2.3) のみを使用するように依存関係が変更されました。アプリケーションコードに Apache Velocity コンポーネントへの明示的な依存関係がある場合は、これらの依存関係をアップグレードして修正バージョンを使用することが推奨されます。

ENTESB-8113 CVE-2018-10237 guava: AtomicDoubleArray および CompoundOrdering クラスでの無制限のメモリー割り当てにより、リモートの攻撃者がサービス拒否を引き起こす[fuse-7.0.0]

Google Guava の 11.0 から 24.1 までのバージョンは、**AtomicDoubleArray** クラス (Java のシリアルライズでシリアル化される場合) および **CompoundOrdering** クラス (GWT のシリアルライズでシリアル化される場合) のバインドされていないメモリー割り当てに対して脆弱です。攻撃者が Guava を使用するアプリケーションを悪用すると、信用できないデータをデシリアルズしてサービス拒否 (DoS) を発生できる可能性があります。詳細は、「[CVE-2018-10237](#)」を参照してください。このセキュリティー脆弱性を回避するため、以下を行うことが推奨されます。

- **AtomicDoubleArray** インスタンスまたは **CompoundOrdering** インスタンスを不明なソースからデシリアルズしないでください。
- 24 以前の Guava バージョンの使用しないようにします (ただし、場合によっては以前のバージョンの使用を避けられないことがあります)。

Fuse 7.7 (およびそれ以降) では、以前の (脆弱な) バージョンの Guava を簡単に使用できないようにするため、デフォルトですべてのコンテナが Guava 27 を選択するよう、Maven BOM (Bill of Material) ファイルが設定されています。そのため、Fuse BOM を Maven プロジェクトに組み込み (BOM ファイルの依存関係を POM ファイルの **dependencyManagement** セクションに追加)、明示的なバージョンを指定 **せずに** Guava アーティファクトの依存関係を指定すると、Guava のデフォルトのバージョンは BOM に指定されたバージョン (Fuse 7.7 の BOM ではバージョン 27) になります。

しかし、脆弱なバージョンの Guava の使用を回避できない一般的なユースケースが少なくとも 1 つあります。これは、OSGi アプリケーションが Guava と Swagger を一緒に使用する場合で、Swagger には Guava 20 が必要であるため、そのバージョンを使用する必要があります。ここでは、その理由と、以前の (脆弱な) Guava 20 ライブラリーを元に戻すために POM ファイルを設定する方法について説明します。まず、**ダブル OSGi チェーン** という概念を理解する必要があります。

ダブル OSGi チェーン

OSGi ランタイムのバンドルは、パッケージ制約 (パッケージ名 + 任意のバージョン/範囲) を使用して **ワイヤリング** されます (インポートおよびエクスポート)。各バンドルは複数のインポートを持つ

ことができ、通常これらのインポートは指定のバンドルを複数のバンドルでワイヤリングします。以下に例を示します。

```
BundleA
+-- BundleB
| +-- BundleCa
+-- BundleCb
```

この例では、**BundleA** は **BundleB** および **BundleCb** に依存し、**BundleB** は **BundleCa** に依存します。**BundleCa** と **BundleCb** が同じパッケージをエクスポートする場合、同じバンドルである必要があります。ただし、バージョン (範囲) の制約により、**BundleB** は **BundleA** とは異なるリビジョン/バージョンの **BundleC** を使用 (ワイヤリング) します。

上記の図を書き換えて、アプリケーションに Guava と Swagger の両方の依存関係を含めるとどうなるか反映させます。

```
org.jboss.qe.cxf.rs.swagger-deployment
+-- Guava 27
+-- Swagger 1.5
    +-- reflections 0.9.11
        +-- Guava 20
```

このバンドル設定のデプロイを試みると、エラー **org.osgi.framework.BundleException: Uses constraint violation** が発生します。

Guava 20 に戻す

プロジェクトが直接的または間接的に Guava ライブラリーと Swagger ライブラリーの両方を使用する場合、Guava バンドルインポートに明示的なバージョン範囲を使用するよう、以下のように **maven-bundle-plugin** を設定する必要があります。

```
<Import-Package>
  com.google.common.base;version="[20.0,21.0)",
  com.google.common.collect;version="[20.0,21.0)",
  com.google.common.io;version="[20.0,21.0)"
</Import-Package>
```

この設定により、OSGi アプリケーションは (脆弱性のある) Guava 20 ライブラリーに強制的に戻されます。そのため、この場合には **AtomicDoubleArray** インスタンスをデシリアライズしないようにすることが特に重要です。

CVE-2017-12629 Solr/Lucene -security bypass to access sensitive data - CVE-2017-12629

Apache Solr は、Apache Lucene 検索エンジンを使用する一般的なオープンソースの検索プラットフォームです。アプリケーションが Apache Solr と Apache Lucene の組み合わせ (Camel Solr コンポーネントを使用している場合など) を使用する場合、このセキュリティー脆弱性の影響を受ける可能性があります。この脆弱性の詳細と軽減策について、リンク先のセキュリティーアドバイザリーを確認してください。



注記

Fuse ランタイムは Apache Solr や Apache Lucene を直接使用 **しません**。統合アプリケーションで Apache Solr と Apache Lucene を一緒に使用する場合のみセキュリティー上のリスクが発生します (Camel Solr コンポーネントを使用する場合など)。

CVE-2021-30129 mina-sshd-core: Apache Mina SSHD サーバーでのメモリーリークのサービス拒否

Apache Mina SSHD の sshd-core の脆弱性により、攻撃者がサーバーをオーバーフローさせ、OutOfMemory エラーが発生する可能性があります。この問題は、Apache Mina SSHD バージョン 2.0.0 以降の SFTP およびポート転送機能に影響します。これは、Apache Mina SSHD 2.7.0 で対処されました。

Apache Mina SSHD のこの脆弱性は、[SSHD-1004](#) により対処されました。これは、この脆弱性を持つ特定の暗号化アルゴリズムを非推奨にします。Fuse 7.10 on Karaf および Fuse 7.10 on JBoss EAP では、これらの非推奨のアルゴリズムは引き続きサポートされます（後方互換性のため）。ただし、非推奨となったアルゴリズムのいずれかを使用している場合は、アプリケーションコードをリファクタリングして、代わりに別のアルゴリズムを使用することが強く推奨されます。

Fuse 7.10 では、デフォルトの暗号化アルゴリズムが以下のように変更されました。

Fuse 7.9	Fuse 7.10	Fuse 7.10 で非推奨となりましたか？
aes128-ctr	aes128-ctr	
	aes192-ctr	
	aes256-ctr	
	aes128-gcm@openssh.com	
	aes256-gcm@openssh.com	
arcfour128	arcfour128	はい
aes128-cbc	aes128-cbc	
	aes192-cbc	
	aes256-cbc	
3des-cbc	3des-cbc	はい
blowfish-cbc	blowfish-cbc	はい

Fuse 7.10 では、デフォルトの鍵交換アルゴリズムが以下のように変更されました。

Fuse 7.9	Fuse 7.10	7.10 で非推奨となりましたか？
diffie-hellman-group-exchange-sha256	diffie-hellman-group-exchange-sha256	
ecdh-sha2-nistp521	ecdh-sha2-nistp521	

Fuse 7.9	Fuse 7.10	7.10 で非推奨となりましたか?
<code>ecdh-sha2-nistp384</code>	<code>ecdh-sha2-nistp384</code>	
<code>ecdh-sha2-nistp256</code>	<code>ecdh-sha2-nistp256</code>	
	<code>diffie-hellman-group18-sha512</code>	
	<code>diffie-hellman-group17-sha512</code>	
	<code>diffie-hellman-group16-sha512</code>	
	<code>diffie-hellman-group15-sha512</code>	
	<code>diffie-hellman-group14-sha256</code>	
<code>diffie-hellman-group-exchange-sha1</code>	<code>diffie-hellman-group-exchange-sha1</code>	はい
<code>diffie-hellman-group1-sha1</code>	<code>diffie-hellman-group1-sha1</code>	はい

7.2. FUSE ONLINE

Fuse Online ディストリビューションの既知の問題は次のとおりです。

ENTESB-17674 OCP 4.9 (またはそれ以降) でPrometheusおよびGrafanaを使用してFuse Onlineを監視するには、回避策が必要

OCP 4.9 (またはそれ以降) では、**application-monitoring** プロジェクトは機能しなくなりました。これは、Prometheus および Grafana で Fuse Online インテグレーションおよびインフラストラクチャーコンポーネントを監視するための前提条件です。

この問題を回避するには、(**openshift-monitoring** namespace で) **ビルトインの OpenShift モニタリングスタック** を使用して **openshift-user-workload-monitoring** 機能および **grafana-operator** を使用し、このリリースノートの Fuse Online での**重要事項** セクションの説明にあるように、**ops addon** を使用します。

ENTESB-17796 CSV パラメーターがAtlasMapステップで更新されない

Fuse Online統合では、CSVパラメーターの値を変更する場合は、マッピングを更新するために何らかの変更 (たとえば、定数値の追加と削除など) を行うことで、そのデータシェイプを使用するすべてのマッピングステップも編集する必要があります。

CSV データのデータマッパーのサポートは、テクノロジープレビュー機能であることに注意してください。

ENTESB-15348 Syndesis-jaeger は、OCP3.11で製品化されていないイメージを使用

Fuse 7.8 以降では、Jaeger アドオンが有効な状態 (アクティブティーの追跡を向上) で Fuse Online を OCP 3.11 にインストールしようとする、以下のエラーが発生する可能性があります。

Unknown desc = toomanyrequests: You have reached your pull rate limit. You may increase the limit by authenticating and upgrading: <https://www.docker.com/increase-rate-limit>

これは、製品化された Jaeger コンテナが Red Hat が制御できない Dockerhub イメージを参照するため発生します。この問題を回避するには、レート制限ウィンドウがタイムアウトするまで待つか、Jaeger アドオンを無効にします。

ENTESB-14518 Syndesis 1.11によってインストールされた Jaeger Operator は、他の namespace に影響を与える

Fuse 7.8 以降では、OpenShift クラスターに Fuse 7.8 Online (Syndesis 1.11) をインストールすると、Jaeger Operator (Fuse Online とともにインストールされる) は、デフォルトで**すべての namespace**を管理するように設定されます。そのため、クラスターに Fuse 7.7 Online (Syndesis 1.10) がすでにインストールされている場合に、Fuse 7.8 Online を別の namespace にインストールすると、Fuse 7.8 Online とともにインストールされた Jaeger Operator が Fuse 7.7 Online の namespace にインストールされた (以前の) Jaeger インスタンスを管理しようとして、その結果、既存の **syndesis-jaeger** Pod に加え、新しい **syndesis-jaeger** Pod が Fuse 7.7 Online namespace に表示され、新しい **syndesis-jaeger** Pod が **CrashLoopBackOff** 状態に入ります。元の Fuse 7.7 Online インスタンスは影響を受けず、クラッシュした **syndesis-jaeger** Pod は無視しても問題ありません。

ENTESB-13966 デプロイされた統合APIの検出が無効になっているようだが、実際にはそうではない

Fuse 7.7 以降、API が含まれる新しいインテグレーションの作成後に、インテグレーションの詳細ページでそのインテグレーションの 3scale 検出が無効になっていると誤って表示されます。また、インテグレーションの詳細ページには API URL が表示されません。このボタンを 3 回クリックすると (Enable、Disable、Enable の順にクリックします) ページが再同期され、3scale の検出が有効になり、API URL が表示されます。

7.3. FUSE ON OPENSIFT

このセクションでは、OpenShift 上の Fuse アプリケーションのデプロイメントに影響する問題を取り上げます。特定のコンテナに影響する問題の詳細は、Spring Boot、Fuse on Apache Karaf、および Fuse on JBoss EAP のセクションも参照にしてください。Fuse on OpenShift ディストリビューションの既知の問題を以下に示します。

ENTESB-17895 [Fuse Console] アップグレードサブスクリプションは、Hawtio を更新しない

Fuse 7.10 では、Operator サブスクリプションチャンネルをバージョン 7.10 に変更して Fuse Console を更新した場合、Fuse Console は version 7.9 のままになります。Fuse Console コンテナと Pod にラベル 7.10 がある場合でも、これらのコンテナは引き続き 7.9 イメージを使用しています。この問題を回避するには、以前のバージョンの Fuse Console を削除してアップグレードを実行し、Fuse Console バージョン 7.10 を新規インストールします。

ENTESB-17861 Apicurito ジェネレーターが Fuse Camel プロジェクトを生成できない

Fuse 7.10 では、API Designer (Apicurito) が Apicurito Operator 経由でインストールされている場合は適切に機能しません (Invalid Cert Error が表示されます)。この問題を回避するには、以下を実行します。

1. <https://apicurito-service-generator-apicurito.apps.clusterURL> で新しいタブを開きます (fo.49-c の場合は <https://apicurito-service-generator-apicurito.apps.fo-49-c.openshift-aws.rhocf-dev.net>)。
2. 証明書を受け入れます。

3. アプリケーションに切り替え、生成ボタンを再度クリックします。

ENTESB-17848 fis-image-streams がグループ化されていないAPIリソースを使用している (非推奨)

Fuse 7.10 では、OCP 4 で Fuse on OpenShift のイメージストリームをインストールする場合 (たとえば、`oc create -n openshift -f ${BASEURL}/fis-image-streams.json` などのコマンドを使用する場合)、以下のような警告メッセージが表示される可能性があります。

```
W1119 13:27:43.408688 22220 shim_kubectl.go:55] Using non-groupified API resources is deprecated and will be removed in a future release, update apiVersion to "image.openshift.io/v1" for your resource
```

これらの警告メッセージは無視しても問題ありません。

ENTESB-17836 [Fuse Console] 新しく追加されたルートがキャメルツリーに表示されない

Fuse 7.10 では、アプリケーションをデプロイした後、ルート (または複数のルート) は Fuse Console の Camel ツリーに表示されません。この問題を回避するには、ルートが表示されるようにページを更新します。

ENTESB-17741 [Fuse Console] Pod の詳細を開くと、Page Not Found と表示される

Fuse 7.10 で、一部のクイックスタートのデプロイ後に Fuse Console の **Discover** ページを開いた場合、Pod のドロップダウンメニュー (3つのドットアイコン) をクリックしてから、**Pod detail** ページをクリックすると、Page Not Found エラーが発生します。

ENTESB-16814 モニタリングリソースがドキュメントから誤ってリンクされている

Fuse 7.8 以降、監視するリソースの場所がセクション 2.5.2 で参照されました。『[Fuse on OpenShift Guide](#)』の **Prometheus** のセットアップが正しくなく、404 例外を返します。この文書化された手順は、GA 後のドキュメント更新で修正される予定です。

7.4. FUSE ON APACHE KARAF

Fuse on Apache Karaf の既知の問題は次のとおりです。

ENTESB-18018 Fuse 7.10 AR10 オフライン検証の問題

Fuse 7.10 では、2つのクイックスタートが offliner ツール (**camel-sap** および **camel-cxf-contract-first**) でインストールされません。ただし、不足しているアーティファクトは (オンライン) Red Hat Maven リポジトリから入手できます。

ENTESB-17819 camel-grpc は fuse-karaf で機能しない

Fuse 7.10 では、Camel GRPC コンポーネントは Apache Karaf コンテナでは機能しません。これは、Fuse の今後のリリースで修正されます。

ENTESB-16417 認証情報ストアはデフォルトで PBEWithSHA1AndDESede を使用

OpenJDK 8u292 および OracleJDK 1.8.0_291 のセキュリティー API は、セキュリティープロバイダーの不完全なリストを返します。これにより、Apache Karaf のクレデンシャルストアに失敗します (必要なセキュリティープロバイダーが利用できないように見えるため)。この問題を引き起こす根本的な問題は <https://bugs.openjdk.java.net/browse/JDK-8249906> です。以前のバージョン OpenJDK バージョンである OpenJDK 8u282 を使用するか、このバグが存在しないそれ以降のバージョンである OpenJDK 8u302 を使用することが推奨されます。

ENTESB-16526 fuse-karaf on Windows は、patch:install 中に再起動できない

Windows プラットフォームの Apache Karaf コンテナで **patch:install** の実行中に、特定の状況では、**patch:install** コマンドがコンテナの自動再起動を試行すると、以下のエラーが発生する可能性があります。

```
Red Hat Fuse starting up. Press Enter to open the shell now...
```

```
100%
```

```
[=====]
Karaf started in 18s. Bundle stats: 235 active, 235 total
'.tmpdir' is not recognized as an internal or external command,
operable program or batch file.
There is a Root instance already running with name ~14 and pid ~13. If you know what you are
doing and want to force the run anyway, SET CHECK_ROOT_INSTANCE_RUNNING=false and
re run the command.
```

このエラーが発生した場合には、Karaf コンテナを手動で再起動します。

ENTESB-8140 ホットデプロイバンドルの開始レベルはデフォルトで80

Fuse 7.0 GA リリース以降の Apache Karaf コンテナでは、ホットデプロイバンドルの開始レベルがデフォルトで 80 になっています。これにより、同じ開始レベルを持つシステムバンドルや機能が多く存在するため、ホットデプロイバンドルに問題が発生することがあります。この問題を回避し、ホットデプロイバンドルが確実に開始するようにするには、**etc/org.apache.felix.fileinstall-deploy.cfg** ファイルを編集し、**felix.fileinstall.start.level** 設定を以下のように変更します。

```
felix.fileinstall.start.level = 90
```

ENTESB-7664 framework-security 機能をインストールすると、karaf を終了する

--no-auto-refresh オプションを使用して **framework-security** OSGi 機能をインストールしないと、Apache Karaf コンテナがシャットダウンします。以下に例を示します。

```
feature:install -v --no-auto-refresh framework-security
```

7.5. FUSE ON JBOSS EAP

Fuse on JBoss EAP の既知の問題は次のとおりです。

ENTESB-13168 EAP ドメインモードでの Camel デプロイメントは Windows で機能しない

Fuse 7.6.0 以降では、Fuse on JBoss EAP で Camel サブシステムを Windows OS 上のドメインモードの JBoss EAP にデプロイできません。

7.6. FUSE TOOLING

Fuse Tooling の既知の問題は次のとおりです。

ENTESB-17705 [Hawtio] ログアウトボタンが消える

Fuse 7.10 では、数回連続してログインおよびログアウトすると、Logout ボタンが表示されなくなります。この問題を回避するには、ページを 1 回以上更新すると、Logout ボタンが再度表示されます。

_FuseTOOLS-3567_Fuse 7.10.0.AR7 on Karaf は、Java 11 を使用する CodeReady Studio で起動できません。

CodeReady Studio 12.22 以降、Fuse Tooling はこれをサポートします。

7.7. APACHE CAMEL

Apache Camel の既知の問題は次のとおりです。

ENTESB-15343 XSLT コンポーネントがIBM1.8JDKで正しく機能しない

Fuse 7.8 では、Camel XSLT コンポーネントは IBM 1.8 JDK と正しく動作しません。この問題は、XSLT の基礎となる Apache Xerces 実装が `javax.xml.XMLConstants#FEATURE_SECURE_PROCESSING` プロパティをサポートしないために発生します ([XERCESJ-1654](#) を参照)。

ENTESB-11060 [camel-linkedin] V1 API は今後はサポートされない

Fuse 7.4.0 以降、Camel LinkedIn コンポーネントが LinkedIn サーバーと通信できなくなりました。これは、LinkedIn でサポートされなくなった LinkedIn Version 1.0 API を使用して実装されているためです。Fuse の今後のリリースで Camel LinkedIn コンポーネントが更新され、Version 2 API を使用するようになる予定です。

ENTESB-7469 Camel Docker コンポーネントはEAPでUnixソケット接続を使用できない

Fuse 7.0 より、`camel-docker` コンポーネントは UNIX ソケットではなく REST API のみを介して Docker に接続できます。

ENTESB-5231 PHP スクリプト言語は機能しない

PHP の OSGi バンドルがないため、PHP スクリプト言語は Apache Karaf コンテナ上の Camel アプリケーションでサポートされません。

ENTESB-5232 Python 言語は機能しない

Python の OSGi バンドルがないため、Python スクリプト言語は Apache Karaf コンテナ上の Camel アプリケーションでサポートされません。

ENTESB-2443 Google Mail API - メッセージの送信と下書きが同期されていない

メッセージまたは下書きを送信すると、応答には ID を持つ Message オブジェクトが含まれます。API への別の呼び出しを介してこのメッセージを即座に取得できない可能性があります。このような場合、待機して呼び出しを再試行する必要があります。

ENTESB-2332 Google Drive API JSON の変更への応答は、最初のページのアイテムの不正な数を返す

変更に対する Google Drive API JSON 応答によって返される最初のページのアイテム数は適切ではありません。リスト操作の `maxResults` を設定すると、最初のページにすべての結果が返されないことがあります。この場合、複数のページを確認して完全リストを取得する必要があります (新しいリクエストに `pageToken` を設定して行います)。

第8章 FUSE 7.10 の問題を修正

以下のセクションには、Fuse 7.10 で修正された問題が記載されています。

- [「Fuse 7.10 で改良された機能」](#)
- [「Fuse 7.10 の機能リクエスト」](#)
- [「Fuse 7.10 のコンポーネントアップグレード」](#)
- [「Fuse 7.10、7.10.1、および 7.10.2 で解決されたバグ」](#)

8.1. FUSE 7.10 で改良された機能

以下の表に Fuse 7.10 で改良された機能を示します。

表8.1 Fuse 7.10 で改良された機能

問題	説明
ENTESB-17591	AtlasMap を 2.3.0 に更新
ENTESB-17610	AtlasMap を 2.3.1 に更新
ENTESB-17355	AtlasMap を 2.3.0-M.3 に更新
ENTESB-16734	syndesis-db の RHEL8 ベースのイメージ
ENTESB-16809	管理対象 Kafka を使用した Camel クライアント
ENTESB-16517	[FoO] OCP 4.9 (Fuse 7.10) での API の非推奨計画
ENTESB-17694	[Fuse Console] Operator メタデータイメージを multiarch にする
ENTESB-17290	[Build] UI で非推奨となった依存関係の更新
ENTESB-17405	Fuse on OpenShift クイックスタートへの Java 11 Maven プロファイルの追加
ENTESB-14379	Fuse Online: Patternfly 4.4.x および React 17 へのアップグレード
ENTESB-16485	[Fuse Console] Fuse Console Operator の CVP の作成
ENTESB-14750	Fuse on Openshift Console (Operator) のメータリングラベルの提供
ENTESB-15863	デフォルトのCRオプションは、一貫性があり、ユーザーフレンドリーでなければならない
ENTESB-17662	AtlasMap の 2.3.2 への更新

問題	説明
ENTESB-17480	Fuse Online 7.10 コンポーネントの調整
ENTESB-17615	EAP 7.4.2.GA-redhat-00002 へのアップグレード
ENTESB-17806	camel-2.23.2.fuse-7_10_0-00017 へのアップグレード
ENTESB-15485	Backport CAMEL-15971 - DummyExchange のため、SimpleFileLanguage は常に null になる
ENTESB-15928	Fuse Online での CSV サポート
ENTESB-17236	FMP Removal [Fuse 7.10]

8.2. FUSE 7.10 の機能リクエスト

以下の表に Fuse 7.10 の機能リクエストを示します。

表8.2 Fuse 7.10 の機能リクエスト

問題	説明
ENTESB-17153	syndesis-oauthproxy の環境変数の設定
ENTESB-14559	インテグレーションを保存および公開するときに、インテグレーションにラベルを付けることを許可する

8.3. FUSE 7.10 のコンポーネントアップグレード

以下の表に Fuse 7.10 のコンポーネントのアップグレードを示します。

表8.3 Fuse 7.10 コンポーネントのアップグレード

問題	説明
ENTESB-17359	protobuf の 3.10.0 へのアップグレード
ENTESB-17320	Netty 4.1.67.Final-redhat-00001 へのアップグレード
ENTESB-17270	7.4.1.GA-redhat-00003 へのアップグレード
ENTESB-17322	Narayana 5.11.3.Final-redhat-00001 へのアップグレード
ENTESB-17321	Hibernate 5.3.21.Final-redhat-00001 へのアップグレード
ENTESB-17319	BouncyCastle 1.69 へのアップグレード

問題	説明
ENTESB-17311	ASM 9.2 へのアップグレード
ENTESB-17335	Jolokia 1.7.1.redhat-00001 へのアップグレード
ENTESB-17323	RH-SSO 7.4.9 / Keycloak 9.0.15.redhat-00002 へのアップグレード
ENTESB-17318	Spring Boot 2.3.12.RELEASE へのアップグレード
ENTESB-17704	camel-2.23.2.fuse-7_10_0-00015 へのアップグレード

8.4. FUSE 7.10、7.10.1、および 7.10.2 で解決されたバグ

以下の表に Fuse 7.10、7.10.1、および 7.10.2 で解決されたバグを示します。

表8.4 Fuse 7.10.2 解決済みのバグ

問題	説明
ENTESB-18800	CVE-2022-22965 Spring4Shell: 攻撃者が特定のパラメーターに悪意のある要求を渡すことができ、Java 仮想マシン内で通常は制限付き機能にアクセスできる可能性がある安全でないパラメーターバインディングの不具合 [fuse-7]

表8.5 Fuse 7.10.1 で解決されたバグ

問題	説明
ENTESB-17986	CVE-2021-4104 log4j: アプリケーションが JMSAppender を使用するように設定されている場合の Log4j 1.x のリモートコード実行 [fuse-7]
ENTESB-18312	CVE-2022-23307 log4j: Chainsaw ログビューアーの安全でないデシリアライズの不具合 [fuse-7]
ENTESB-18326	CVE-2022-23302 log4j: アプリケーションが JMSSink を使用するように設定されている場合の Log4j 1.x のリモートコード実行 [fuse-7]
ENTESB-18327	CVE-2022-23305 log4j: アプリケーションが JDBCAppender を使用するように設定されている場合の Log4j 1.x の SQL インジェクション [fuse-7]

表8.6 Fuse 7.10 で解決されたバグ

問題	説明
ENTESB-17968	CVE-2021-44228 log4j-core: 攻撃者が制御する文字列の値がログに含まれる場合の Log4j 2.x でのリモートコード実行 [fuse-7]

問題	説明
ENTESB-17597	[Hawtio] Windows マシンで Spring Boot 2 が失敗する
ENTESB-17588	Postgresql の無効な認証タイプ
ENTESB-17603	karaf + jdk11 で camel-infinispan が動作しない
ENTESB-17590	camel-2.23.2.fuse-7_10_0-00012 で wildfly-camel ビルドが失敗する
ENTESB-17646	jdk11 + karaf + cxf codewrtier インスタンスの問題
ENTESB-17642	機能 hibernate-validator-groovy をインストールできない
ENTESB-17640	クイックスタート spring-boot-camel-xa に jdk11 の誤ったイメージ参照が含まれる
ENTESB-17636	7.10.AR6 でコンポーネントアライメントドキュメントの不適切なアライメント
ENTESB-17643	マッピングが作成された直後に、Collapse Repeating Delimiters チェックボックスが表示されない
ENTESB-17708	ソースの jar maven プラグインをクイックスタートの prod プロファイルに移動する
ENTESB-17700	Karaf でクライアント bin コマンドを実行すると、NoClassDefFoundError が発生する
ENTESB-17660	Elytron が PersistenceManager として設定されている場合に Karaf を起動できない
ENTESB-17414	Fuse console が ppc64le で起動しない
ENTESB-17409	fis-image-streams.json に fuse-karaf-openshift-jdk11-rhel8 がない
ENTESB-17445	fuse-karaf + jdk11 - javax.xml.ws の誤った Import-package バージョン
ENTESB-17466	Apicurito 7.10 バンドルが 7.9 チャンネルを使用
ENTESB-17527	Camel 2.23 のダウンストリームの失敗
ENTESB-17654	クライアントスクリプトが Karaf で機能しない
ENTESB-17377	DataMapper 定数は、値なしで保存できます。
ENTESB-17226	PubSubIntegrationTest が Invalid grant: account not found で失敗する

問題	説明
ENTESB-16765	jdk11 / open-jdk11 を使用する Fuse on Karaf で、Blueprint のインストール中に NoClassDefFoundError が表示される
ENTESB-16504	[Fuse Console] Spring Boot Camel クイックスタートに失敗する
ENTESB-16987	[Hawtio] OSGi → Features のドロップダウンメニューのレイアウトが崩れている
ENTESB-16990	スプリット変換の DataMapper マルチスペース区切り文字は、"double spaces" 区切り文字として動作する
ENTESB-16425	Spring Boot Camel AMQ S2I クイックスタートの Readme.adoc にアクセスできないリンクがある
ENTESB-16283	spring-boot-camel-xa クイックスタートにメタリングラベルがない
ENTESB-17611	openjdk11 での Camel 2.23 のダウンストリームの失敗
ENTESB-17281	API にエラーが含まれる場合に API Connector リビューページがない
ENTESB-17253	クイックスタート spring-boot-camel-amq には README.md ファイルが引き続き含まれる
ENTESB-17411	Fuse Online 7.10 バンドルがインデックスを作成できない
ENTESB-17399	インテグレーションの Atlasmap 例外
ENTESB-17406	ビルド Fuse Online 7.10 AR4 の古いメタリングラベル
ENTESB-17478	[Fuse Console] メタデータイメージは fuse console operator 1.9 イメージを指す
ENTESB-17416	Webhook の編集の手順で CSV インスタンスパラメーターが消える
ENTESB-17282	PF の更新後の Fuse Online UI の拡張機能
ENTESB-17280	maven-deploy-plugin バージョンアライメント
ENTESB-17328	誤った fuse-karaf 製品化バージョン
ENTESB-17329	クイックスタートテンプレートの誤ったメタデータ値、ラベル、appName、メタリングラベル
ENTESB-17308	Camel Hystrix コンポーネントが karaf で動作しない

問題	説明
ENTESB-17396	7.10.AR4 でコンポーネントアライメントドキュメントの不適切なアライメント
ENTESB-17385	hawtio 2 は hawtio-log Karaf 機能（および MBean）を単に削除するべきではない
ENTESB-17341	nodeAffinity および toleration がインテグレーション Pod に設定されていない
ENTESB-17337	Spring Boot Rhosak クイックスタートの無効な JSON テンプレートファイル
ENTESB-17354	Fuse Online 7.9 → 7.10 へのアップグレードが OCP 3.11 で動作しない
ENTESB-17343	リンクされたドキュメントはバージョン 7.10 ではなく 7.9 向け
ENTESB-17146	GET コマンドを使用する場合、RedisConstants.COMMAND ヘッダーは考慮されない
ENTESB-17332	Fuse Karaf イメージの誤った Karaf Framework バージョン
ENTESB-17330	アーキタイプにおける誤ったイメージ参照
ENTESB-17256	S2I SpringBoot Rhosak クイックスタートに ServiceAccount ラベルがない
ENTESB-17251	ログの表示リンクは存在しないページを指している
ENTESB-13112	Autodiscovery AMQ Streams Web 要素に data-testid がない
ENTESB-14032	Syndesis/Fuse オンラインロゴがホームページにリンクされない
ENTESB-17091	spring-boot-camel-rhosak クイックスタートにメタリングラベルがない
ENTESB-16482	JDK11 でクイックスタートを実行している際の org.jolokia.util.ClassUtil による不正なリフレクティブアクセス
ENTESB-16256	Camel springboot BOM が存在しないアーティファクトを参照する
ENTESB-12106	CR から deployIntegrations フラグを削除する
ENTESB-16037	API クライアントコネクターおよび接続の作成 - 重複するユーザー名とパスワードのセクション
ENTESB-16285	fuse サーキットブレーカーブースターのラベルが間違っていると、サービスとルートが機能しない

問題	説明
ENTESB-15153	500 応答が検証 UI ページに表示されない
ENTESB-17749	7.10.AR7 でコンポーネントアライメントドキュメントの不適切なアライメント
ENTESB-17780	7.10.AR7 の Camel 2.23 ダウンストリームの失敗
ENTESB-17773	spring-boot-camel-drools ルート例外
ENTESB-17744	Karaf クイックスタートが java 11 をサポートしない
ENTESB-17748	ENV を削除または名前変更しても、インテグレーション Pod に引き続き表示されます。
ENTESB-17734	CSV パラメーターの削除は 2 回目の試行まで機能します。
ENTESB-17165	Istio Booster - ステータス
ENTESB-17746	アプリケーションテンプレートの spring-boot-camel-rhosak の git 参照が間違っている
ENTESB-17762	ssh 機能の使用中に公開鍵を使用した Karaf での認証の失敗
ENTESB-17671	Camel 2.23 のダウンストリームの失敗
ENTESB-17707	com.mongodb.client.MongoClient を使用した ClassCastException
ENTESB-17706	libthrift-0.14.0.redhat-00001 は cassandra と互換性がない
ENTESB-17776	[Apicurito] メタデータは古いジェネレーターイメージを指す
ENTESB-16892	Elastic Search Rest を SpringBoot で使用できない
ENTESB-17750	4 つの機能がインストールされていない
ENTESB-17402	pom.xml の誤ったメタデータ値、ラベル、appName、メタリングラベル
ENTESB-17815	history コマンドは以前の履歴を表示しない
ENTESB-17769	CVE-2020-13949 (Synthesis に正しいバージョンの libthrift が含まれることを確認)
ENTESB-17699	CVE-2020-27218 (Synthesis が固定の net.sf.ehcache:ehcache を使用していることを確認)

問題	説明
ENTESB-17790	CVE-2021-29425 (Synthesis が固定の commons-io を使用していることを確認)
ENTESB-17598	camel-ftp および camel-jsch と互換性のない SSH クライアントライブラリー
ENTESB-17137	非接続環境では Fuse Online にアクセスできない
ENTESB-17890	特定のインテグレーションビルドに springboot の依存関係バージョンがない
ENTESB-17885	OData (v2のみ) コネクターとのインテグレーションを開始できない
ENTESB-17144	Apicurito Generator によって生成される Fuse Camel プロジェクトが管理ポートを公開しない
ENTESB-17800	karaf-camel-amq クイックスタートは、起動時に Camel のコンテキストを再起動する
ENTESB-17300	誤ったアーキテクチャー (arm64、ppc64le、s390x) により Fuse Online イメージ (7.10) ビルドに失敗する
ENTESB-17697	CVE-2021-37136 (Synthesis が固定の io.netty:netty-codec を使用していることを確認)
ENTESB-17770	CVE-2021-3629 (Synthesis に正しいバージョンの undertow が含まれていることを確認)
ENTESB-17772	CVE-2021-20220 (Synthesis に正しいバージョンの undertow が含まれていることを確認)
ENTESB-17771	CVE-2021-3690 (Synthesis に正しいバージョンの undertow が含まれていることを確認)
ENTESB-17632	CVE-2020-27223 (Synthesis が固定の org.eclipse.jetty:jetty-http を使用していることを確認)
ENTESB-17683	CVE-2021-27568 (Synthesis が固定の net.minidev:json-smart を使用していることを確認)
ENTESB-17853	AR8 Fuse Online バンドルが古いバージョンを置き換える
ENTESB-17765	CVE-2021-37714 (Synthesis に正しいバージョンの jsoup が含まれていることを確認)
ENTESB-17709	s390x での Camel 2.23.2 ダウンストリームの失敗

問題	説明
ENTESB-17607	Salesforce の認証エラー
ENTESB-16790	正しい xsd を使用するように、すべての製品化された xml サンプルを更新
ENTESB-17767	MongoDB コネクターとのインテグレーションを開始できない
ENTESB-17847	リポジトリキャッシュに破損している maven-tooling JAR が含まれる
ENTESB-17811	壊れたカスタム OpenAPI クライアントの作成
ENTESB-17757	camel-ftp および camel-jsch と互換性のない SSH クライアントライブラリー
ENTESB-17840	S2I Spring Boot Camel Rhosak クイックスタートのテンプレートに誤ったセクターがある
ENTESB-17786	Fuse Apicurio Generator で、Fabric8 Maven プラグインの代わりに、OpenShift Maven を使用する
ENTESB-17618	Jenkins で ZookeeperIntegrationTest が断続的に失敗する
ENTESB-17379	SAP のネイティブライブラリー
ENTESB-17668	OCP3 で CRD を更新した後、oc get syndesis は数分間機能しない
ENTESB-17858	AR9 Fuse スモークテストに失敗する
ENTESB-17766	CVE-2021-34428、Syndesis に正しいバージョンの jetty が含まれるようにする
ENTESB-17877	AR8 Apicurito バンドルは、古いバージョンを置き換える
ENTESB-17791	Fuse 7.10 AR7 の offliner を使用する場合のアーティファクトがない
ENTESB-16971	MongoDb3 コンポーネントが常に localhost に接続する